



TRAM SYSTEM

NEWS LETTER

Ver. 2016. 01



今月のコンテンツ



Internet Explorer

◎ 古い Internet Explorer がサポート終了

- ・古いIEのサポートが2016年1月に終了
- ・ブラウザのシェア率



自動運転カー

◎ 自動運転技術はここまできた

- ・スーパーコンピューターが車に積まれる日



暖冬の影響でワカサギ釣りの湖が凍らないそうです…。

新年あけましておめでとうございます。
本年もトラムが綴る最新IT通信情報をお届けいたしますのでお付き合いの程、よろしくお願い申し上げます。

2016年もIT通信業界は成長と改革を続け、一般社会に次々と進出し、溶け込んで行くことになるでしょう。
それらの情報をいち早くお届けし、ビジネスとプライベートの両方で効率よくご活用出来るよう願っております。

◎ 古い Internet Explorer がサポート終了

古いIEのサポートが2016年1月に終了

2016年1月13日、古いIE (Internet Explorer) のサポートが終了します。

	2016年1月にサポートが終了する「古い」IE	2016年1月以降もサポートが続く最新版IE
Windows Vista	IE7 / IE8	IE9
Windows 7	IE8 / IE9 / IE10	IE11
Windows 8	IE10	(なし。OS自体のサポートが終了するため)
Windows 8.1	(なし)	IE11
Windows 10	(なし)	IE11 (標準ブラウザであるMicrosoft Edgeとは別に利用可能)
Windows Server 2008	IE7 / IE8	IE9
Windows Server 2008 R2	IE8 / IE9 / IE10	IE11
Windows Server 2012	(なし)	IE10
Windows Server 2012 R2	(なし)	IE11

左図をもとに、サポートが終了しているバージョンをお使いの方は、「最新バージョンへアップ」するか、「ブラウザの変更」をするかの対応をしましょう。

サポートが終了したバージョンは今後、セキュリティ上の脆弱性が発見されたとしても、修正されることなく放置されることになります。

「IEのサポートの終了」=「IEの寿命」といえるでしょう。

※IEのバージョンを確認する方法

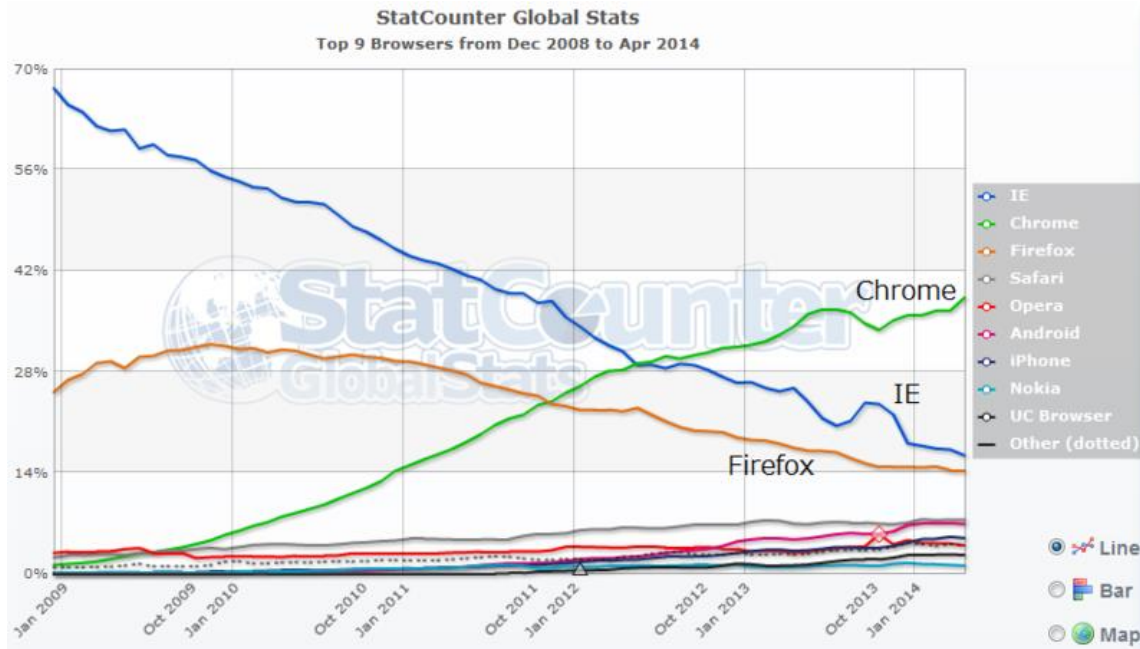
IEを立ち上げ、右上の「ヘルプ」⇒「バージョンの確認」とクリックすると現在のバージョンが確認できます。

◎ 古い Internet Explorer がサポート終了

ブラウザのシェア率について

昨年8月頃、IEのセキュリティに重大な脆弱性が発見され、一騒動あったのも記憶に新しいかと思います。

脆弱性と使い易さの問題で、2009年で80%近くあったブラウザのシェア率をIEは近年で大きく落としています。



左の図はStatCounterによる全体的なブラウザの推移です。

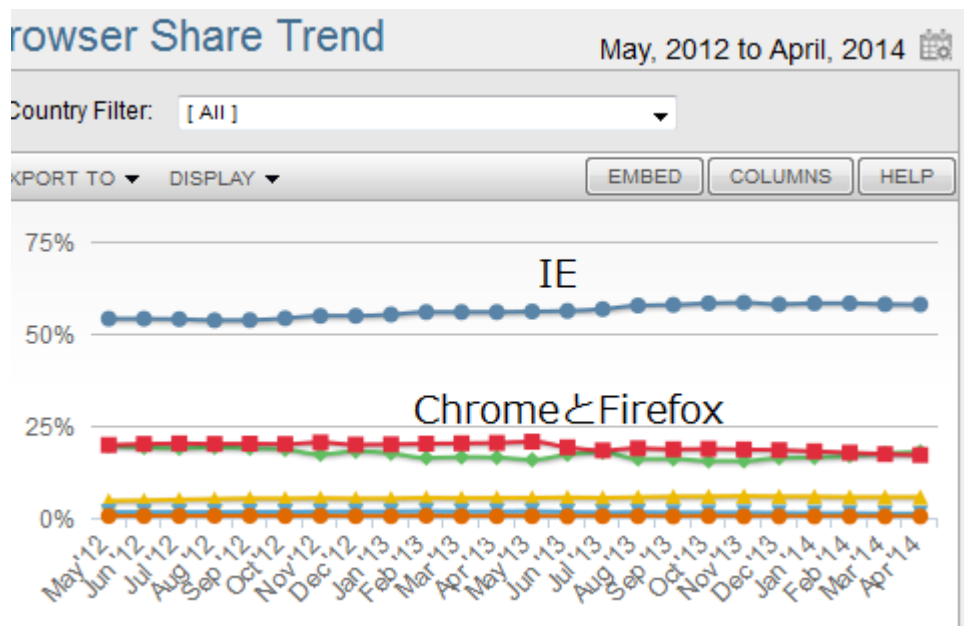
StatCounterを使用する300万サイトのヒット数からの統計データとなり、ブラウザのシェア率を測るうえで一般的なデータとなります。

Chrome(クローム)の成長著しく、IEの没落っぷりが目立ちます。同じくFirefoxも徐々にシェアを落としていますね。

◎ 古い Internet Explorer がサポート終了

ブラウザのシェア率について

別の調査会社NetApplicationsによると、先ほどの結果と異なりIEが安定してシェア率を維持しています。



どっちが正しいの？となるわけですが、どちらも正しいのです。

これは対象とする集団や母数が異なっており、左のグラフは主にライトユーザー向けのデータと捉えるとわかりやすいです。

StatCounterはPCのヘビーユーザーのカウントが多いわけですね。

IEの脆弱性が騒がれた時の会話がこちら

「IEに脆弱性が見つかりましたが対策されてますか？」「そんな難しいの知らない！怖い！

インターネットはヤフーで見れば大丈夫なんでしょ！ヤフー！！」

IEのシェア率が下がらないわけですね。。

結局ブラウザは何かいい？

現状ではセキュリティの信頼度と使い易さで言えば「Chrome」か「Firefox」の2択だと思います。

「IE」はサポート切れがあるので少々手間に感じますね。

◎ 自動運転技術はここまでのきた

スーパーコンピューターが車に積まれる日

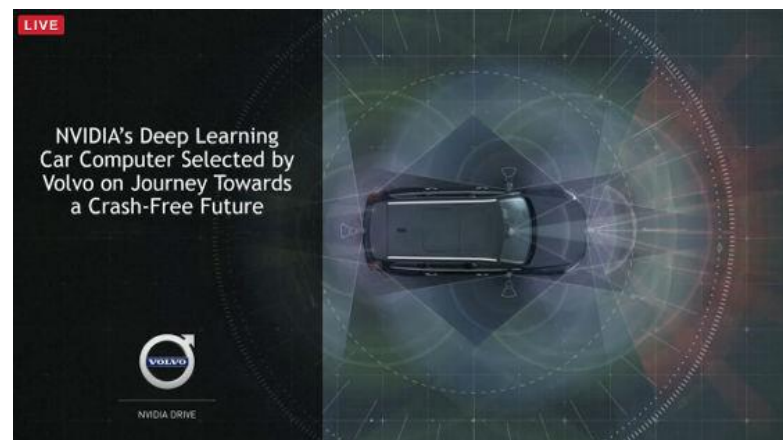


左の図は、2015年9月に公開されたGoogleが手掛ける自動運転自動車の試乗会に登場した車です。
 まだまだ先だろうと思われていた自動運転技術はもうすでにかなり複雑な道路事情でも実用レベルに達していると言われており、Googleは2017年の販売を目標にしているそうです。
 現実味がわきませんが来年のことですよね・・・。

自動車メーカーでは、BMW、トヨタ、フォードなど、スーパーコンピューターを車に搭載して自動運転技術の開発を進めています。

内容はいたってシンプル、カメラで全方位確認し、全ての人や車、道路標識や建物、小動物等々を認識し、未来予測をたててAIが運転するとのこと。

これら膨大な情報を瞬時に認識・判断できるまでのコンピューターが既に存在するわけです。



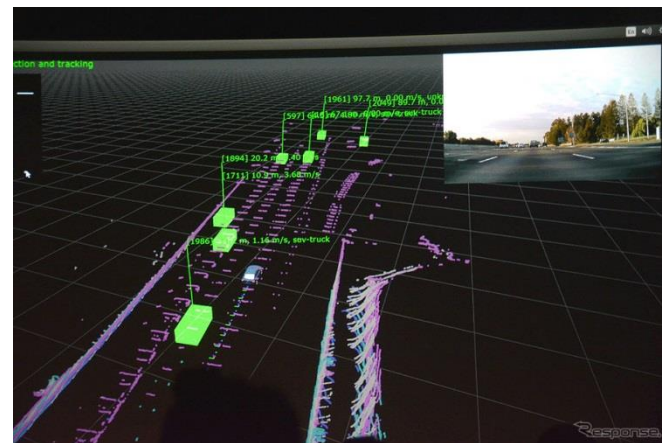
世界初の公道走行試験は2017年で、一番乗りはVOLVOになるそうです。

◎ 自動運転技術はここまでのきた

スーパーコンピューターが車に積まれる日

自動運転技術に使われているコンピューターは人間の脳の動きを模しており、その演算処理スピードは1秒間に24兆回という凄まじさを誇ります。

なおかつ、リリース後も一度認識した人やモノはデータベースに追加され、更に精度が上がっていくそうです。一度見たら忘れませんってことですね。



Google社が研究している自動運転の未来予想図です。これで車内の風景だというから驚きですね。

自動運転カーは交通事故や渋滞を大幅に減らし、快適な都市環境の実現に大きな期待を寄せられています。他にも、ドライバーなしで移動できる車も理論上は可能ですから、運送業やタクシー、配車サービス業で激震が起こることは確実とみられています。

今は道路法の壁が大きく立ちはだかっているようですが、実現すれば世界はガラリと変わりそうです。

お酒を飲んで車に乗り込み、気が付いたら家に到着・・・想像するだに たまらんですな(笑)。



トラムシステム株式会社

〒465-0063

愛知県名古屋市名東区新宿2丁目55番地

TEL:052-701-2634

FAX:052-701-2637

Mail : info@tramsystem.jp